



とこなめ陶の森 企画展

陶芸研究所が伝える 堀口捨己と常滑焼

陶芸研究所は、伊奈製陶株(現株 LIXIL)の創業者・伊奈長三郎氏が常滑陶芸の興隆を念願されて同社株式を常滑市に寄付、その資金により昭和36年(1961年)10月に創建されました。その目的は古常滑の研究と展示・陶芸家の育成であり、建物の設計は日本の近代建築のパイオニアで茶室の研究者・堀口捨己によるものです。

創建60年を経た陶芸研究所は、今も常滑陶芸の振興拠点として活用されています。また、戦後の近代建築が失われつつあるなか、本館建物は大規模な改修がされていない貴重な建物です。

この企画展は、堀口捨己の軌跡と常滑焼の魅力を再発見することにより、陶芸研究所の保存と活用の機運を高めるために開催します。

2022

7/30土 ▶ 10/10月・祝

9:00 - 17:00 休館日：月曜
(祝日の場合は翌日)

とこなめ陶の森 陶芸研究所 | 入館無料 |

堀口捨己

写真提供：堀口捨己資料
アーカイブズ



陶芸研究所本館 茶室



自然釉大甕 (平安時代末期)

〔講演会〕 場所：資料館2階講座室
要予約：先着40名 お申し込み方法はホームページをご覧ください

7月30日(土) 13:30~15:30

〔テーマ〕堀口捨己と陶芸研究所
～さらなる価値を求めて～

講師 藤岡洋保氏 (東京工業大学名誉教授、近代建築史 / 工学博士)

〔陶の森講座〕 場所：陶芸研究所2階
当日受付(先着)：各回定員20名

第1回 8月20日(土) 13:30~

〔テーマ〕堀口捨己と陶芸研究所 ~建設当時を振り返って~
宮崎孝氏 (元堀口捨己研究室助手、陶芸研究所建設時の現場監督)

第2回 9月3日(土) 13:30~

〔テーマ〕堀口捨己が陶芸研究所に伝えたかったもの
~家具等からの考察~

永柳宏氏 (愛知大学特別客員教授、愛知淑徳大学非常勤講師)

第3回 9月24日(土) 13:30~

〔テーマ〕堀口捨己と常滑焼

小栗康寛 (とこなめ陶の森学芸員)



東側外観 (建設当時)

ほりぐちすてみ

堀口捨己 (1895 - 1984)

岐阜県生まれ。東京帝国大学工科大学建築学科卒業。分離派建築会として、過去の建築様式からの脱却を目指し活動。1925 (大正14)年頃から本格的に設計活動を開始。「数寄屋造」を日本建築の真髓と位置づけ、日本建築の普遍性を取り入れつつ現代社会に適応した建築をつくり続けた。

とこなめ

古常滑

中世の頃に知多半島の北部から中央部で作られたやきもの。大型の壺や甕が多く作られ、その土は鉄分が多く低い温度でもよく焼締まり貯蔵器に適していた。生産量は、中世窯業地の中で最も多く、海運を利用し全国へ流通していった。



自然釉三筋壺 (平安時代末期)



STILL ALIVE
国際芸術祭
あいち2022
連携企画事業

国際芸術祭「あいち2022」連携企画事業

〔お問合せ〕

tounomori@city.tokoname.lg.jp

0569-35-3970

〒479-0822 愛知県常滑市奥条7丁目22番地

http://www.tokoname-tounomori.jp

